

謝辞

穏やかな日差しに、いよいよ春の訪れを感じる季節となりました。

本日、ここに卒業の日を迎えることができ、卒業生一同大変嬉しく思っております。新潟県内でも感染が拡大している新型コロナウイルスの影響により、残念ながら今年度の卒業証書・学位記授与式は挙行されないこととなってしまいました。いま終わろうとしている学生生活を振り返り、この場を借りて感謝の気持ちをお伝えしたいと思えます。

六年前の春。これから始まる新しい日々を思いを馳せ、私たちは期待と不安を胸にこの新潟薬科大学に入学しました。初めての講義の日、教室も自分の席も決まっていない、まだ名も知らぬ学友ばかりの講義室で戸惑ったのが、昨日のことのよう思い出されます。

振り返ればこれまで、楽しいことばかりでなく、困難なこともありました。しかし今となっては、それらを乗り越えてきたことが大きな自信となり、全て現在の私たちを形作るのに必要な経験であったと感じています。学年が進み専門性が増すと、いつしか薬学の面白さに夢中になっていました。一見独立したように思える分野も、学習を進めるにつれ関連性が見え、複数の分野が絡み合い「薬学」という大きな分野を構成する。これが薬学を学ぶことの面白さだと思います。様々なことに興味を持ちながら学び続け、新たな知識を蓄積することへの喜びを実感できたのは、私たちに寄り添い熱心にご指導くださった諸先生方のおかげです。本当にありがとうございます。

この先、私たちはそれぞれの道を歩んでゆきます。新型コロナウイルスにより世界中で混乱が起ころ中、今まさに医療の現場に踏み出そうとしている私たちは、身の引き締まる思いでいっぱいです。今後とも未知の問題や、今まで以上に困難なこ

とがいくつも待ち受けていることでしょう。しかし、この学生生活で積み上げてきたものを信じ、広く社会に貢献できるよう、日々邁進してゆく所存です。

最後になりますが、私たちが今日までの道のりを歩み続けることができたのは、私たちの自主性を尊重し、あたたかく時に厳しく指導してくださいました諸先生方、学生生活を多方面から支援してくださいました職員の皆様、互いに励まし合い苦楽を共にしてきた友人たち、そして、どのような時も一番近くで見守り続けてくれた家族の支えがあったからです。卒業生一同、皆様に深く御礼申し上げます。

そして、新潟薬科大学の益々のご発展を祈念いたしましたして、感謝の言葉とさせていただきます。

令和二年三月二十日

新潟薬科大学 第四十回卒業生

代表 高橋 亜衣